

高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業
多様性への対応に関する調査研究事業

通信制高等学校における多様な生徒に対する個の強みを伸ばす指導方法の調査研究

報告書

事業期間：平成 30 年 4 月～令和 3 年 3 月

学校法人 国際学園

高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業 多様性への対応に関する調査研究事業 完了にあたって

文部科学省「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実」事業、「多様性への対応に関する調査研究事業」を受託し、平成 30（2018）年 4 月から令和 3（2021）年 3 月までの 3 年間「通信制高等学校における多様な生徒に対する個の強みを伸ばす指導方法の調査研究」をテーマに本事業に取り組んできました。

本調査研究では、①調査対象校生徒への半構造化面接による聞き取り調査の分析、②調査対象校教員への面接調査、③検討会議による調査内容の検討と考察、④検討会議による、遠隔地学習センターの実地調査、⑤考察に基づく生徒の強点を伸ばす教員研修プログラムの開発、⑥考察に基づくシステムのブラッシュアップを目的として、それぞれ地域に密着し、特色のある教育活動を展開している「通学型」の広域通信制高校・星槎国際高校の 3 つの学習センター、具体的には、2018 年 9 月に星槎国際高校星槎国際高校沖縄学習センター、2019 年 9 月に星槎国際高校帯広学習センター、2020 年 9 月に星槎国際高校富山学習センターで聞き取り調査等を行うこととしました。これらの調査研究は平成 27（2015）年度より 3 年間取り組んできた、文部科学省委託の多様な学習支援推進事業「通信制高等学校における多様な生徒への個別支援システムの研究・開発」（前回調査研究）を継続・発展させたものです。

前回調査研究では、生徒の状況に適した目標設定、教育環境の提供により、個に応じた対応を実現し、学習意欲の向上が図られ、生徒が将来を担う主体としての社会的自立を実現できるよう指導するための支援計画を作成するシステム（キャリアガイドシステム-β 版）を構築し、システムに連動するアンケート等を実施・分析しました。今回の本調査研究では、特にシステムに連動するアンケートを生徒がスマートフォン（携帯電話）で回答できるようにし（詳細なマニュアル作成）、これを聞き取り調査前に実施し、さらにこのアンケート項目に

学習支援に関する項目（「好きな授業はありますか」「勉強がわからないときに助けてくれる人がいますか」「勉強したくないときに応援してくれる人はいますか」）も付け加えました。

本調査研究の最終年度(令和2年度)に予期せぬ事態（新型コロナウイルスの爆発的流行）に見舞われました。2020年4月7日の緊急事態宣言及びそれ以後の感染状況を踏まえて、2020年9月富山学習センターの訪問調査を中止（昨年度までは宿泊を伴う訪問調査であったが、今回は2020年12月にインターネットによるテレビ会議の形で実施）、各種の打ち合わせや総括的議論を行う会議等の設定や実施等に著しい支障が生じることとなりました。

それでも本報告書に見られるとおり（特に考察や「星槎国際高等学校向け キャリアガイドシステム アンケート利用マニュアル（教員研修プログラム）」等）、一定の成果は達成できたものと自負しています。本事業参加者はコロナ禍の収束（終息は難しいにしても）を見通し、これに続く調査研究で本研究を完了したいと切に願っています。

本委託事業に関する検討会議
大野 精一（座長）

「通信制高等学校における多様な生徒に対する個の強みを伸ばす指導方法の調査研究」

調査研究校 学校法人 国際学園 星槎国際高等学校長 前田 豊

標記調査研究における令和2年度（調査研究3年目）研究調査報告書発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本研究調査の調査研究校として最終年度を迎え、文部科学省をはじめとする関係諸機関の指導助言をいただきながら、調査研究を進め最終報告書を作成する運びとなりました。

本校は、平成11年（1999）年に開校した広域通信制高等学校です。在籍生徒数は5,233名（令和2年5月1日現在）であり、全国に在住しています。開校時より新たな形態の通信制高校を目指して、全国に学習センターを配置し生徒への適切な支援体制を実現すべく教育活動を展開しています。多様な生徒に対応するため、教員は星槎教育研究所の協力で支援教育カウンセラーの資格を有して指導にあたるなど着実に成果も上がっているところです。そして、個に応じたよりきめ細かな生徒支援・相談体制を構築して自己実現につなげていくかが課題の一つになっております。

平成27年から開始した調査研究事業において構築したキャリアガイドシステムの有効性の確認のほか、生徒だけでなく地域の多様性にも着目し、生徒が持つ個々の強みの伸長へ寄与できるよう、調査、研究、分析に取り組んできました。調査研究1年目では、沖縄学習センター、2年目は帯広学習センター、3年目は富山学習センターに登校する生徒を対象に、半構造化面接による聞き取り調査を実施し、類型別に事例をまとめるとともに、教員からも生徒指導の事例調査を積み重ね、システムのブラッシュアップに努めてきました。

こうした調査研究により、通信制高等学校に登校する生徒像の大まかな把握ができるデータづくりに資するものであり、教職員や生徒自身が個々の特性や成長に気づきやすく、面談力の向上につながると考え

ています。今後は、生徒支援のための視点の獲得を図るため、キャリアガイドシステムを活用した研修をおこなっていく予定であります。今回、この報告書では現在の取り組み状況、成果と課題等を示しております。まだまだ積み重ねが必要な調査研究であるため、今後も皆さまの忌憚のないご意見を頂戴し、本校の教育活動全般の更なる改善につなげていきたいと考えています。さらには、高等学校通信制教育全体の質の確保・向上に寄与すべく、取りまとめた研究成果を広く普及してまいりたいと考えています。

結びになりますが、本校の調査研究推進にあたり、多大なご支援をいただきました関係諸機関の皆さまに厚くお礼申し上げます、研究成果報告書の巻頭言といたします。

目次

1	研究の背景	6
2	調査研究のねらい	8
3	調査研究の内容	9
4	調査結果	11
5	キャリアガイドシステムの改修	15
6	考察	53

1. 研究の背景

新制高校の進学率は、戦後すぐには 40%程度というところからスタートして、70 年余りを経た今、98%を超えるものとなった。中学校卒業後、二人に一人が進学するという状況から、ほぼ全員が進学するものとなり、今や、「高校ぐらい出ているのが当たり前、就職できない」といわれるような社会になっている。

この中で通信制高校が果たしてきた役割は、時代とともに変化しつつも、とても重要なものであった。

通信制高校は、戦後すぐに全日制・定時制の高校に通学することができない青少年に対して、通信の方法により高校教育を受ける機会を与えるために生まれた。かつては全日制・定時制に通学できないとは、経済的な事情が多く理由を占めたが、平成に入るところから通学できない理由が、学力の問題であったり、不登校の問題であったり、既成の学校への反発であったり、通学できないのではなく通学する意思がないなど実に多様化してきた。

また、通信制高校に通学する生徒の多様化に応じるように、いわゆる通学型通信制高校と呼ばれる形態が一般的になってきている。通学型通信制高校とは「通信の方法」を使った、「通学型」「全日型」の「全日制・定時制」でない高校ということである。広域通信制高校とされている 105 校のうち、週 2 日以上の上の通学コースを持つものは 62 校となっている。

平成 28 年度中の通信制高校卒業生数は約 5.2 万人であり、当該卒業学年にあたる 3 年前の通信制高校入学者数約 2.2 万人の 2.4 倍となっている。この数字は全日制・定時制高校からの転編入学者によるものと考えられる。この状況は平成 10(1998)年以降顕著になってきている。また、平成 10(1998)年に公立 69 校・私立 31 校だった通信制高校は、平成 28(2016)年には、公立 77 校・私立 148 校、株式会社立 19 校という状況になった。

このような状況がなぜ起こり、その状況に対して通信制高校はどのように対応していくべきか考えていくことは喫緊の課題であると認識している。また、現在高校卒業生のうち通信制高校卒業生はおおよそ 5%を占めることとなっている。この数字は 20 人の高校卒業生の内 1 人は通信制高校卒業生ということの意味する。通信制高校において通信教育という特性を生かしつつどのよう

に教育活動にあたることができるかは極めて重要な課題である。

また、平成 25 年度より通信制高校も調査対象となった、「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（平成 28 年度）によると、全日制・定時制高校からの転編入生を数多く受け入れてきたと考えられる通信制高校であるが、その退学者数もおおよそ 1 万人を数えるということが明らかになった。

2 万人の入学者が、5 万人となって卒業し、その間に年間 1 万人が退学していく通信制高校において、どのような指導が求められ、その実際はどうであるのか明らかにしていくとともに次代に何を伝えていくべきなのかを教育において考える必要がある。

労働人口はもとより、人口そのものが減少していく超高齢社会において、この事実は極めて重要な課題である。

2. 調査研究の目的

本調査研究では、通信制高校に入学してくる多様な生徒に対して、生徒が自身の持つ強みを伸張し、社会を生き抜く力を身に付け、自らの将来を切り拓いていけるようにするために、生徒の学習ニーズに応じたどのような指導方法が有効かを明らかにし、これからの高校通信教育に望まれる取り組みを示すことを目的とした。

3. 調査研究の内容

本研究調査は、星槎国際高等学校を調査研究校として、平成 27 年から取り組んできた調査研究事業により構築したキャリアガイドシステムを、実際の現場でどのように活用することが有効かを明らかにするとともに、更なる調査・研究・分析をして、現在まで取り組んできた活動の一層のレベルアップを図り、より充実した生徒支援・相談体制を構築し多様な生徒の学習ニーズに応じた通信制高校の在り方やそれに基づく新たな取り組みを推進し提言を行うものである。

その際、生徒が全国に在住する広域通信制高校の特徴を踏まえつつ、生徒の現在おかれた状態像の多様性のみならず、生活の基盤となる居住する地域の多様性にも着目する。取り組みの観点として、ガードナーの提唱する多重知能の考え方を参考に、生徒個々が持つ強みをいかに把握し、伸ばしていくことができるかという取り組みにも注力した。

具体的には、

① 調査対象校生徒への半構造化面接による聞き取り調査の分析

生徒の所属する学習センターごとに実施した生徒への聞き取り調査を、類型別に事例としてまとめた。

② 調査対象校教員への面接調査

各学習センター教員に、在籍している生徒に関してキャリアガイドシステムで類型化した区分に基づき、面接調査したものを分析し検討を行った。

また加えて、過去の生徒指導に関する成功、失敗の事例（教員にヒアリング）の調査を行った。

③ 検討会議による調査内容の検討と考察

生徒が入力したアンケート結果をもとに、調査結果を分析・考察を行った。

※実地調査（ヒアリング）前に、生徒にアンケートを入力してもらったものを事前に分析した。

実地調査後に、分析から作成した仮説と合致するかの検証を行った。

④ 検討会議による、遠隔地学習センターの実地調査

遠隔に位置する学習センターで、どのように本校からの指導・支援の研修が行われ、どのように全国の学習センターと協働しているのかを一番北方にある帯広学習センターにて実地調査を行った。

⑤ 考察に基づく生徒の強点を伸ばす教員研修プログラムの開発

各種調査を検討・考察し、広域通信制高校ならではの生徒の強点を伸ばす、教員研修プログラムの開発の検討を行った。

⑥ 考察に基づくシステムのブラッシュアップ

多様な学習を支援する高等学校の推進事業にて開発したキャリアガイドシステムを、より現場で活用するために、今回提案している調査研究の要素を加えてブラッシュアップを行った。

4. 調査結果

聞き取り調査は、2018年9月に星槎国際高校沖縄学習センター、2019年9月に星槎国際高校帯広学習センターで行った。2020年は、星槎国際高校富山学習センターで行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症のため、現地に赴くことは難しく、12月にインターネットによるテレビ会議の形で行った。

インタビューに参加した生徒は、沖縄学習センター28名、帯広学習センター30名、富山学習センター12名であった。学年は高校3年生が中心であった。各3名から5名の生徒に対してグループ面接を行った。面接者は各3名程度の研究協力者であった。インタビュー時間はそれぞれ30分だった。

調査項目は、以下の通りだった。1.今の学校生活の中で楽しいことはなんですか？2.なぜ星槎国際高校を選んだのですか？3.将来はどのように考えていますか？その他として、学校内の雰囲気、先生たちへの印象などであった。また、キャリアガイドシステムを実際に生徒たちに入力する際の問題点などを尋ねた。

今回の調査では、沖縄、北海道、富山という南北に離れた地域において、聞き取り調査を行ったが、どの学習センターにおいても、星槎国際高校の特徴である広域通信制高校という理由のためか、中学校時代に不登校を経験した生徒がほとんどであり、転編入学を経験した生徒が多かった。そして、どの学習センターにおいても、学習センターの先生の距離感の近さや、校則が厳しくないところ、自分の存在を認めてくれることに関して、肯定的な意見が多かった。

不登校の原因は、文部科学省初等中等教育局児童生徒課「令和元年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」によれば、不登校の要因は、小中学校合わせると、「無気力・不安」が39.9%となっている。また、中学校では、2位が「いじめを除く友人関係をめぐる問題」であり、3位は、「生活リズムの乱れ、遊び、非行」と「学業の不振」がほぼ同じ割合で続いている。無気力に類する概念として、学習性無力感があるが、学習性無力感とは、藤井（2014）によれば、いくら努力しても成績が振るわないなど、自身の行動に結果が伴わない場合無力感に陥るとされる。また、不安に関しては、本人の能力に合っていない課題が出されていたりするな

ど、自分のイメージと現実にズレが出るときに、大きな不安を感じると考えられる。我が国は、年齢・履修主義が教育の基本であり、学習指導要領により年齢で課題が決まっているため、一度躓いてしまうと、その遅れを取り戻すことが難しい。そのため一度不登校になってしまうと、復学することが難しく、不登校児童生徒への指導結果で、指導の結果登校する、又はできるようになった児童生徒の割合は、小中ともに、22.8%だと報告されている。

そこで、広域通信制高校の場合は、単位制でもあり、年齢で授業内容が決まっているわけではなく、自分のペースで学ぶことができることが最大の特徴である。現在、広域通信制高校が不登校経験をしている生徒を多く受け入れていることも指摘されている（文部科学省, 2019）。

星槎グループにおいては、星槎の3つの約束、「人を認める」、「人を排除しない」、「仲間をつくる」というものを大事にしている。生徒の会話の中からも、この3つの約束に関する発言がみられたが、多様な生徒がいる中で、星槎国際高校では、障害の有無に関わらず、IEPを作成しており、本人の発達に合わせたカリキュラムを用意していることが大きな特徴である。中学生・高校生は、人に認めて欲しいという欲求も発達する。しかし、自分ができる課題が準備されていない環境では、不安も強くなり、その結果無気力状態になり、不登校という選択をしてしまうと考えられるが、自分ができる課題が準備されるのであれば、自分は認められ、排除されていなく、仲間に入れてもらっていると考えられるのではないだろうか？転編入学者が多いので、星槎国際高校に転編入学時期がそれぞれ異なる中、グループ面接に参加した生徒たちは、それぞれが友人関係をつくっていたのが印象的であった。「人を認める」というのは、直接的に、褒めてもらえるというだけではなく、生徒が主体としてみなされており、生徒が声をかけたときに教員がしっかりと応じてくれることであったり、生徒が達成可能な課題が出されたりするときに感じることもできるのではないだろうか。校則が厳しくないと感じることができると、生徒が認められていると感じることに影響していると考えられる。

生徒が教員に認められていると感じることができれば、教員と生徒の関係だけでなく、生徒間の関係性も良好になると考えられる。星槎国際高校は、転

編入学の生徒が多く、同じクラスに異年齢の生徒も存在するが、縦割りの活動も含め、年齢の違いを乗り越え、「仲間をつくる」活動も認められた。

生徒からの不満点や不安な点に関しては、教員と生徒の関係が近すぎることへの不安や、生徒に合わせた活動が多いことで大学受験や進路に関する不安も聞くことができた。不登校を経験し、自分の存在が認められなかった不安に対して、友達のように接してもらえることで、通学する意欲が増えたことは評価できるが、その一方で、社会に出たときに、そのような環境ばかりではないことを心配する生徒もいる。これらは、今後の課題として指摘できる。

各センターでの教員への面談においては、星槎グループの特徴である生徒中心の学校に関する言及が多く見られた。生徒が主体ということで、何でも好きなことをやらせるというわけではなく、生徒が主体的に成長していくことを、各イベントを通して、社会のルールや社会性を身につけていくことの重要性が述べられていた。また、それぞれの学習センターの地域性に関しては、生徒面接では得られない情報が得られた。沖縄、帯広、富山と地域性の違いも見られ、自立や、就労を含め地域や家庭における経済的な問題に関する支援の方法に悩んでいる教員もみられた。

教員研修のあり方に関しては、若い先生と中堅の先生がともに、研修をすることが目的ではなく、生徒のためになる研修の必要性を考えており、むやみに研修の時間を増やすことが重要ではなく、生徒支援のための視点の獲得のための合理的な研修が必要であることが指摘できる。そのためにも、このキャリアガイドシステムが有効利用され、生徒の特徴やニーズを合理的に把握することによって、生徒一人ひとりが主体的に学んでいくための教育システムを作っていくことの重要性が指摘できる。今後は、このキャリアガイドシステムを有効活用する方法の職員研修を行っていくことが望まれる。

文献：

文部科学省（2019）高等学校通信教育の質の確保・向上方策について
（審議のまとめ）

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieidfile/2017/08/07/1388794_1.pdf

藤井勉（2014）誠信心理学辞典 誠信書房 P.227

5. キャリアガイドシステムの改修

高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた
指導の充実事業

新キャリアガイドシステム説明書

2019-03-05

【目次】

I.	はじめに	2
1.	この資料について.....	2
2.	システムソフトウェアについての説明.....	2
3.	更新履歴	2
II.	キャリアガイド画面遷移図	3
III.	閲覧権限について	4
IV.	キャリアガイドログイン	5
1.	ログイン（教員）	5
2.	IDパスワードでのログイン（生徒）	5
V.	キャリアガイド	6
1.	生徒の基礎情報.....	6
2.	アンケートの出力（教員）	6
3.	アンケートの入力.....	8

1. はじめに

1. この資料について

この資料は「新キャリアガイドシステム説明書」です。

2. システムソフトウェアについての説明

以下、使用するソフトウェアのバージョンについて定義します。

- NetCommons (3.2.2)

以下、運用環境の OS 関係です。

- CentOS 6、もしくは 7

その他の OS について

当システムは NetCommons をベースとした WEB システムです。

そのため、Linux、Windows 系の OS で動作します。

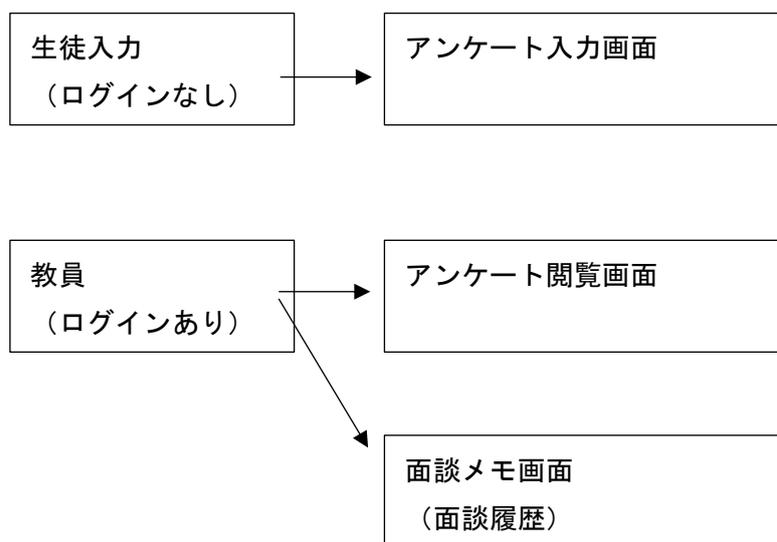
※ NetCommons は[大学共同利用機関]情報・システム研究機構の登録商標です。

3. 更新履歴

2019-03-05 : 初版

II. キャリアガイド画面遷移図

キャリアガイドシステムでは以下の画面構成になっています。



III. 閲覧権限について

教員は、所属している管轄（コミュニティルーム）の生徒のアンケートのみ閲覧ができます。

教員は自分で管轄を変更することはできません。

所属する管轄は管理者のみ設定することができます。

生徒は、ログインはしないでアンケート入力を行います。

IV. キャリアガイドログイン

1. ログイン（教員）

各センターの教員がログインする場合は、画面右上のログインリンクを押下します。

以下が教員ログインの画面の一部になります。

ログイン ID、パスワード入力後、ログインボタンを押します。

← 新キャリアガイドシステム-高等学校における次世代... ログイン

ログイン

ログインID*
ログインIDを入力してください。

パスワード*
パスワードを入力してください。

ログイン

パスワードがわからない方はこちら

※注意点

ユーザ情報にメールの設定がない場合はパスワード再発行はできません。

万一、ログインできなくなった場合は、管理者に連絡してください。

2. ID パスワードでのログイン（生徒）

アンケート入力負荷軽減の為、生徒のログインは削除しました。

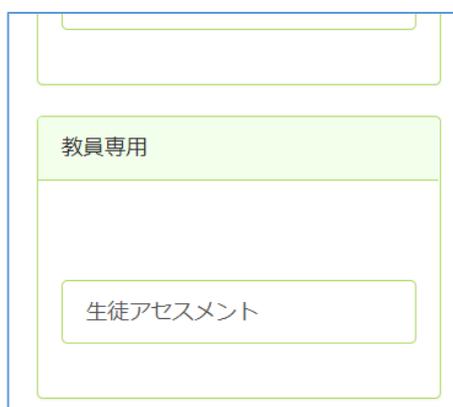
V. キャリアガイド

1. 生徒の基礎情報

※生徒の情報は、学務システムと直接連携する（2019 年度構想段階）

2. アンケートの出力（教員）

1. リンクを押下



2. 一覧画面で、GC と対象の生徒を押下



3. アンケート出力

新キャリアガイドシステム-高等学校における次世代...



<<戻る

名字 永原
 名前 馬
 所属学習センター 沖縄学習センター
 その他の回答 []
 生年月日 1968-06-29
 学校での生活の充実度 充実している
 提出物について 時々遅れた
 部活動の充実度 充実している
 部活動している場合はその名称 パソコン
 同じクラスの仲の良い友人 ムタクン
 違うクラスの中の良い友人 菅野くん
 友人関係について ほぼ良好
 好きな授業は何ですか 情報処理入門

楽しかった行事

<2019年3月時点の構想>

面談で利用する形式で出力

学務システムと連携

面談メモ（該当のGCルーム）と連携

熱中していること

熱中しているものは 創作活動

その他

その他の回答 [ワープロ]

お小遣いをもらっていますか 必要な時にもらっている

金額はいくらですか。 5001円以上

その他の回答 [10000]

アルバイトをしていますか。 している

どんな期間ですか。 単発

どんな職種（仕事内容）ですか。複... その他

その他の回答 [執筆]

お金を何にどれくらい使いますか。

夜寝ることが出来ない理由は何です... その他

その他の回答 [家事手伝い]

趣味や打ち込んでいること、習い事... 写真

将来の夢 未定

将来の夢の理由 将来になりたい仕事のため

あこがれ

第一志望 博士

第二志望 教授

第三志望 プログラマー

将来の夢・目標 日本制覇

受験勉強の取り組みはどうか。 すでに始めている

一番幸せだったと感じた時期はいつ... 50

どのようなところにいたとき幸せと... 家にいるとき

その他

その他の回答 [会社]

どのようなことがあった時幸せと感... ありがとうと言われた時

笑顔を見たとき

その他

その他の回答 [人の役にたったとき]

その時に比べて、今の幸せレベルは？ 8

好きなことについて（現在）にチェ... たくさん友達をつくる

図や絵をかく

気になったことをつきとめる

音楽を聴く

地理の勉強

その他

よろしく願いいたします。

3. アンケートの入力

生徒配布資料

自分を知るためのアンケート B

以下の QR コードを読み取り、回答ボタンを押下して入力作業を行ってください。

アンケートの回答時間は約 6 分



QR コード読み取り不可の場合は下記 URL を入力してください

<https://xxxxx.seisa.ac.jp/>

※QR コードの読み取り方法は以下を参考にしてください。

<iPhone(iOS11)の場合>

カメラアプリを起動して QR コードを読み取ってください。

<LINE アプリ>

「友だち追加」を選択すると上部に「QR コード」が表示されます。

タップすると読み取り画面になるので読み取りたい QR コードを撮影すると、読み取り結果が表示されます。

「開く」をタップするとアンケートが表示されます

<Twitter アプリ>

アプリを開いて左上の「アカウント」をタップします。

開かれた部分の右下にある四角い QR コードのマークをタップすると、自分のアカウント情報を QR コードで表示します。

QR コードを読み取り後、「外部 URL を開く」と表示されるので「OK」を選択すると、表示された URL に繋がります。

アンケート入力画面になります。

アンケート

回答状態 **全て表示** ▾

新キャリアガイドシステムドラフト2
作成中です

回答

アンケート

新キャリアガイドシステムドラフト2
作成中です

***名字**
名字

***名前**
名前

***所属学習センター**
所属学習センターを選択してください

本部長

本部長

連携室 (横浜ポートサイド校)

連携室 (大宮校)

連携室

その他

***生年月日**
生年月日を入力してください

次へ ➤

質問項目は一部割愛

アンケート

新キャリアガイドシステムドラ フト2

作成中です

ありがとうございました

× 終了

2019 年度「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業」の教員研修プログラムについての報告事項

2020 年 2 月 13 日

株式会社オープンソース・ワークショップ 代表取締役 永原 篤

1. はじめに

本項では、星槎国際高等学校の「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業」の中で計画された「考察に基づく生徒の強点を伸ばす教員研修プログラムの開発」について、内容を説明するとともに、星槎国際高等学校 帯広学習センターにて実施した内容を説明します。

- キャリアガイドシステムのアンケート機能
- アンケート項目の考え方
- アンケート結果の見方
- アンケート結果をもとにした教員への確認

2. キャリアガイドシステムのアンケート機能

キャリアガイドシステムにはアンケート機能があり、生徒からアンケートを収集し、集計することができます。

このアンケート結果の集計を用いて、生徒の状況を数値化し、強点や表面化する前の問題の発見につなげます。

アンケート機能の使い方は別途「新キャリアガイドシステム アンケート利用マニュアル(教員研修プログラム)」に記載します。

3. アンケート項目の考え方

強点や問題の発見にアンケートの回答から相関を探します。

以下はプロジェクトメンバーである大野 精一先生から提案されたアンケート項目とその結果から可能となる議論の例になります。

【アンケート項目】

項目	問い	選択肢
A	好きな授業はありますか	1) ない 2) 1つある 3) 2つ～3つある 4) 4つ以上ある
B	勉強がわからないときに 助けてくれる人がいますか	1) いない 2) 一人いる 3) 2～3人いる 4) 4人以上いる
C	勉強したくないときに応援 してくれる人はいますか	1) いない 2) 一人いる 3) 2～3人いる 4) 4人以上いる

2019 年度「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業」の教員研修プログラムについての報告事項

【アンケート項目から議論できる内容】

- 1) ない、あるいは いない とそれ例外に分ければ当然に χ^2 分布で独立性検定ができる（例えば A と C はそれぞれ独立している（全く関係ない）との帰無仮説が否定できても、それはある確率でそれぞれ独立しているとは言えない、ということだけであって、たとえば A と B の関係（相関）はわかりません）
- 2) ない、あるいは いない とそれ例外に分ければ、 $2 \times 2 \times 2$ の 8 通りの類型が出てくる（例えば、好きな授業があるのに助けてくれる人（support）も応援してくれる人（care）もないという類型では古典的な自学自習タイプが想定できるかも知れない）。その人数や比率を確定して当該教育機関での具体的な指導（care と support）のあり方を議論できる。
特に当該教育機関ではもし個人名が特定できれば、その援助はさらに具体的に進む。
- 3) 上記の A～C 項目の各相関を検討できる。
- 4) 3 項目全体の分布を三次元空間で表現し、その特徴を議論できる。
- 5) <学習ケア>関連の上記 A～C 項目とそれ以外のアンケート項目との関連を検討し、通信制高校における学習の意義を問うことができる。

4. アンケート結果の見方

アンケートデータの操作については、別途「新キャリアガイドシステム アンケート利用マニュアル（教員研修プログラム）」を参照してください。

以下は前述の 3 項目のアンケート結果を名義尺度に変換して集計したものです。

項目 A:好きな授業はありますか ⇒ 「ない」は N、他は Y

項目 B:勉強がわからないときに助けてくれる人がいますか ⇒ 「いない」は N、他は Y

項目 C:勉強したくないときに応援してくれる人はいますか ⇒ 「いない」は N、他は Y

表のタイトル行の値は、項目 A、B、C の集計をつなげたものです。

	YYY	NYY	YNY	YYN	NNY	NYN	YNN	NNN	合計
人数	8	2	1	4	0	5	8	3	31
割合	25.806	6.452	3.226	12.903	0	16.129	25.806	9.677	100

この結果から、YYY の好きな授業はあり、助けてくれる人も応援してくれる人もいると答えたのは 8 名、YNN で好きな授業はあるが、助けてくれる人、応援してくれる人がいないと答えたのが 8 名、NNN で好きな授業もなく、助けてくれる人、応援してくれる人がいないと答えたのが 3 名という結果が出た。

2019 年度「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業」の教員研修プログラムについての報告事項

5. アンケート結果をもとにした教員への確認

上記結果から特注意したいと思えた NNN の好きな授業もなく、助けてくれる人、応援してくれる人がいないと答えた3名を中心に学習センター長を含めた教員への確認を行った。

アンケートによる個人が特定できているため、個別の事情を理解している教員に確認することで、おおよその回答の理由も想像でき、この時は大きな問題ではないことが確認できた。

アンケート結果の集計は Excel を用いて行っているため、集計計算を変更することで、様々な集計が可能となり、学習センターに応じた状況把握や星槎国際高等学校としての集計が可能なものが出てきた。

星槎国際高等学校様向け
新キャリアガイドシステム
アンケート利用マニュアル
(教員研修プログラム)

株式会社オープンソース・ワークショップ

2020-02-13

【目次】

I.	はじめに	2
1.	この資料について.....	2
2.	システムソフトウェアについての説明.....	2
3.	更新履歴	2
II.	キャリアガイド画面遷移図	3
III.	CSV ダウンロード権限について.....	3
IV.	アンケート結果の利用方法	4
1.	Excel を利用した特定の質問の集計と分析	4
2.	アンケート B 集計テンプレート.xlsx の抽出質問について	8
V.	お問合せ	9
1.	メール	9
2.	Web サイト	9

1. はじめに

1. この資料について

この資料は「星槎国際高等学校様向け キャリアガイドシステム アンケート利用マニュアル（教員研修プログラム）」です。

2. システムソフトウェアについての説明

以下、使用するソフトウェアのバージョンについて定義します。

- NetCommons (3.2.2)

以下、運用環境の OS 関係です。

- CentOS 6、もしくは 7

その他の OS について

当システムは NetCommons をベースとした WEB システムです。

そのため、Linux、Windows 系の OS で動作します。

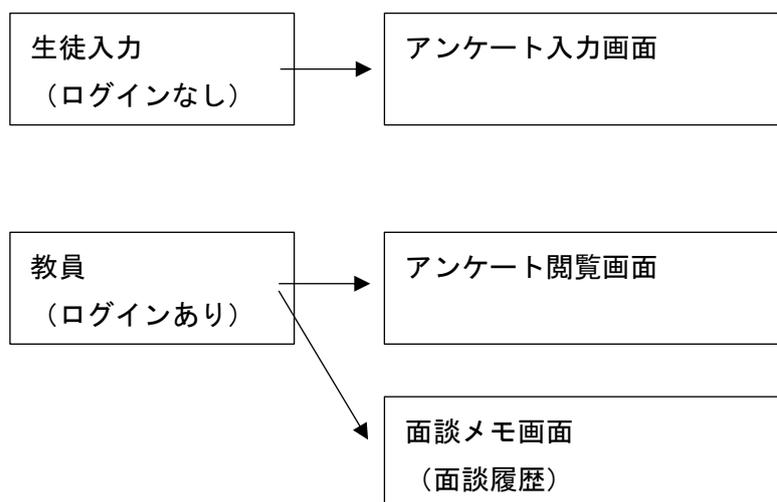
※ NetCommons は[大学共同利用機関]情報・システム研究機構の登録商標です。

3. 更新履歴

2020-02-13 : 初版

II. キャリアガイド画面遷移図

キャリアガイドシステムでは以下の画面構成になっています。



III. CSV ダウンロード権限について

教員は、アンケートを一括してダウンロードすることはできません。

CSV データのダウンロード方法につきましては、システム管理者もしくは、担当者までご連絡ください。

IV. アンケート結果の利用方法

1. Excel を利用した特定の質問の集計と分析

※教員の利用を前提としております

1. アンケート CSV を入手してください。

※入手方法に関しては P. 4 を参照ください

2. キャリアガイドシステムにログインしてください。



← 新キャリアガイドシステム-高等学校における次世代 ログイン

ログイン

ログインID*

ログインIDを入力してください。

パスワード*

パスワードを入力してください。

ログイン

パスワードがわからない方はこちら

3. 教員研修プログラムページに遷移してください。



SEISA Seisa Kokusai High School

星槎国際高等学校 新キャリアガイドシステム

メニュー

- ホーム
- アンケート
- 有償公開示版
- 厚木GC
- 沖繩GC
- 帯広キャンパス

教員専用

教員研修プログラム

教員研修プログラム調査 (2019年度)

印刷 > 並び替え >

検索 追加

コンテンツがありません。

キャビネット

教員研修用共有キャビネット

教員研修用共有キャビネット

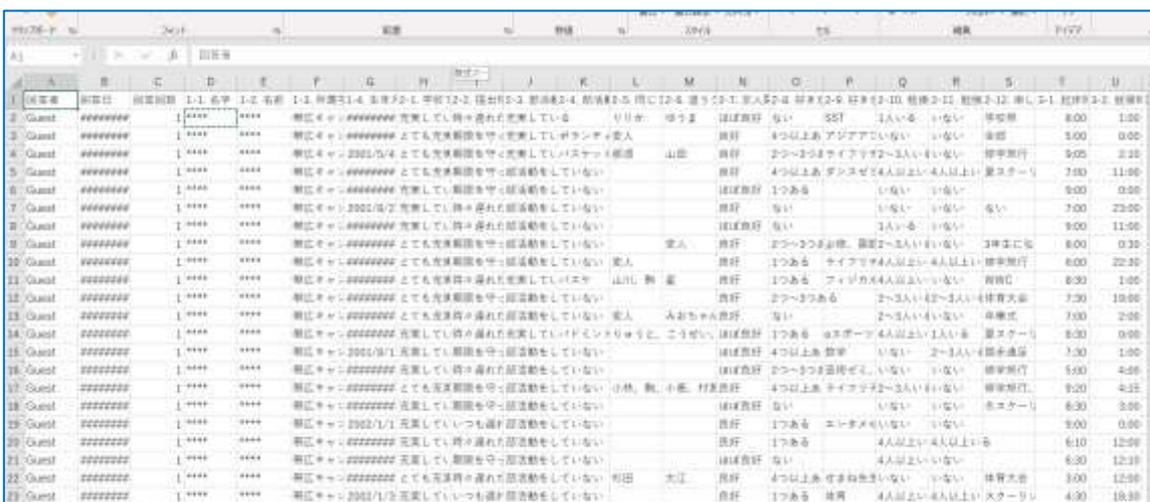
共有ファイル追加 共有フォルダ作成

名前	サイズ	更新日
教員研修用共有...		
アンケート分...	22 KB	17:45

4. 教員研修用共有キャビネット>アンケート分析用を押下し、アンケート B 集計テンプレート.xlsx をダウンロードしてください。



5. CSV ファイルを右クリックしプログラムから開く>Excel を押下してください。

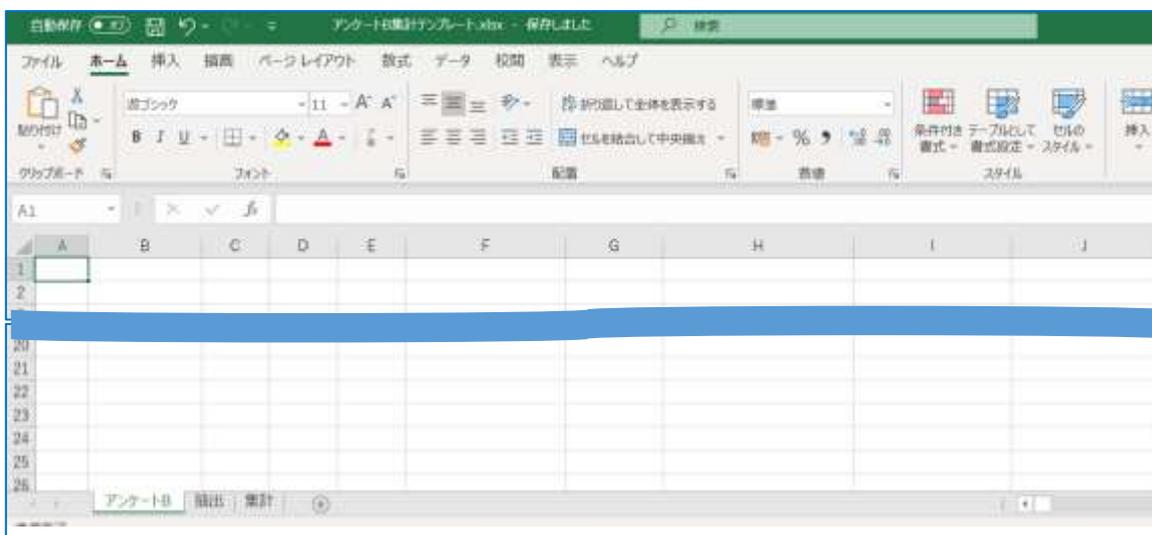


※参考ファイルの氏名は伏せ字にしております

6. CSV ファイルを Excel で開いたら全選択 (Ctrl+A) でシートのデータをクリップボードにコピーしてください。

7. ダウンロードしたアンケート B 集計テンプレート.xlsx を開いてください。

8. アンケート B 集計テンプレート.xlsx アンケート B シートの A1 を選択し、クリップボードのデータをペースト (Ctrl+V) してください。



9. 抽出シートを参照してください。

※抽出質問に関しては別途記載

	B	C	D	E	F	G
1	1-1. 名字	1-2. 名前	2-8. 好きな	2-10. 勉強	2-11. 勉強	全部
2	****	****	N	Y	N	NYN
3	****	****	Y	N	N	YNN
4	****	****	Y	Y	N	YYN
5	****	****	Y	Y	Y	YYY
6	****	****	Y	N	N	YNN
7	****	****	N	N	N	NNN
21	****	****	Y	Y	N	YYN
22	****	****	Y	N	N	YNN
23	****	****	Y	Y	Y	YYY

10. 集計シートを参照し、ご活用ください。

B11 =COUNTIF(抽出!\$G\$2:\$G\$32,B10)									
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	2-8.がない以外がY	2-6.がないがN	2-10.がない以外がY	2-10.がないがN	2-11.がない以外がY	2-11.がないがN			
2	人数	21	10	19	12	11	20		
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9	※項目名のYは「ない以外」、Nは「ない（いない）」を質問順に連結しています								
10	YYY	NVY	YNY	YYN	NNY	NYN	YNN	NNN	合計
11	人数	8	2	1	4	0	5	8	31
12	割合	25.806	6.452	3.226	12.903	0	16.129	25.806	9.677
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									

2. アンケート B 集計テンプレート.xlsx の抽出質問について

当 Excel では、以下の質問を抽出し、集計しております。

<抽出質問>

- ・ 2-8. 好きな授業はありますか
- ・ 2-10. 勉強がわからないときに助けてくれる人がいますか
- ・ 2-11. 勉強したくないときに応援してくれる人はいますか

※抽出の意図は大野先生（他）有識者に追記してもらう

<抽出シート説明>

抽出シートではアンケート B シートの上記問を抽出、評価（ポジティブ要素には Y、ネガティブ要素には N をつける）しております。

The screenshot shows an Excel spreadsheet with the following data:

	A	B	C	D	E
1		2-8.がない以外がY	2-8.がないがN	2-10.がない以外がY	2-10.か
2	人数	21	10	19	
3					

The formula bar shows: `=COUNTIF(抽出!D2:D32,"Y")`

<割合シート説明>

割合シートでは、抽出シートの各問の YN 数。連続回答パターンの集計を行っております。数式に関しては、以下を参考にアレンジを加えることも可能です。

The screenshot shows an Excel spreadsheet with the following data:

	A	B	C	D	E
9	※項目値のYは「ない以外」、Nは「ない（いない）」を質問順に連結				
10		YYY	NYY	YNY	Y
11	人数	8	2	1	
12	割合	25.806	6.452	3.226	
13					

The formula bar shows: `=ROUND(B11/J11*100,3)`

V. お問い合わせ

1. メール

以下のメールアドレスにご質問の内容など記載してお送りください。
担当者より返信致します。

support@opensource-workshop.jp

2. Web サイト

社 名：株式会社 オープンソース・ワークショップ

住 所：東京都中央区京橋2丁目8番4号 オックスフォードビル 2F

担当者：永原 篤

電 話：03-5534-8088

W E B：<https://opensource-workshop.jp>

星槎国際高等学校様向け
新キャリアガイドシステム
アンケート利用マニュアル
(教員研修プログラム)

株式会社オープンソース・ワークショップ

2021-02-12

【目次】

I.	はじめに	2
1.	この資料について.....	2
2.	システムソフトウェアについての説明.....	2
3.	更新履歴	2
II.	キャリアガイド画面遷移図	3
III.	CSV ダウンロード権限について.....	3
IV.	アンケート結果の利用方法	4
1.	Excel を利用した特定の質問の集計と分析	4
2.	アンケート B 集計テンプレート.xlsx の抽出質問について	8
V.	2020 年度におけるシステムの有用性について.....	9
1.	2020 年度における環境と、分析事項について	9
2.	遠隔地でのシステム利用について.....	9
3.	遠隔利用における障害について.....	10
4.	2020 年度の考察と分析	10
VI.	お問合せ	12
1.	メール	12
2.	Web サイト	12

1. はじめに

1. この資料について

この資料は「星槎国際高等学校様向け キャリアガイドシステム アンケート利用マニュアル（教員研修プログラム）」です。

2. システムソフトウェアについての説明

以下、使用するソフトウェアのバージョンについて定義します。

- NetCommons (3.2.2)

以下、運用環境の OS 関係です。

- CentOS 6、もしくは 7

その他の OS について

当システムは NetCommons をベースとした WEB システムです。

そのため、Linux、Windows 系の OS で動作します。

※ NetCommons は[大学共同利用機関]情報・システム研究機構の登録商標です。

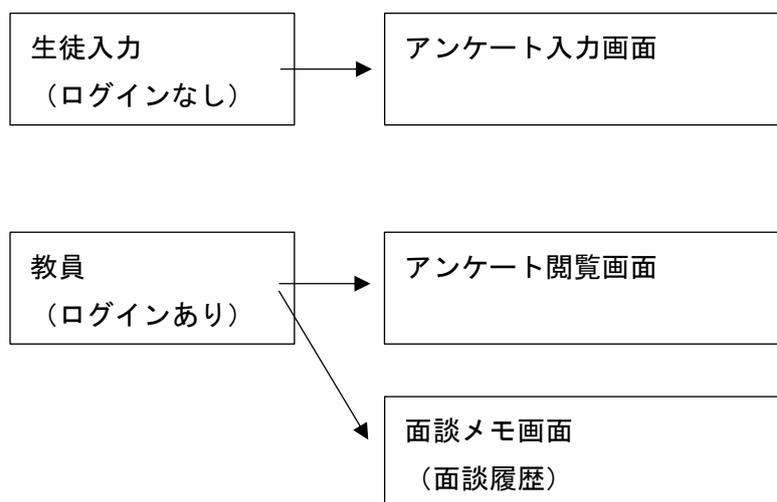
3. 更新履歴

2020-02-13 : 初版

2021-02-12 : 2020 年度の事業考察を追記

II. キャリアガイド画面遷移図

キャリアガイドシステムでは以下の画面構成になっています。



III. CSV ダウンロード権限について

教員は、アンケートを一括してダウンロードすることはできません。

CSV データのダウンロード方法につきましては、システム管理者もしくは、担当者までご連絡ください。

IV. アンケート結果の利用方法

1. Excel を利用した特定の質問の集計と分析

※教員の利用を前提としております

1. アンケート CSV を入手してください。

※入手方法に関しては P. 4 を参照ください

2. キャリアガイドシステムにログインしてください。



← 新キャリアガイドシステム-高等学校における次世代... ログイン

ログイン

ログインID*
ログインIDを入力してください。

パスワード*
パスワードを入力してください。

ログイン

パスワードがわからない方はこちら

3. 教員研修プログラムページに遷移してください。



SEISA Seisa Kokusai High School

星槎国際高等学校 新キャリアガイドシステム

メニュー

- ホーム
- アンケート
- 有識者掲示板
- 厚木GC
- 沖縄GC
- 帯広キャンパス

教員研修プログラム

教員研修プログラム調査 (2019年度)

10件 - 並び替え +

検索 + 追加

コンテンツがありません。

キャビネット

教員研修用共有キャビネット

教員研修用共有キャビネット

+ ファイル追加 + フォルダ作成

名前	サイズ	更新日
アンケート分析用	22 KB	17:43

教員専用

4. 教員研修用共有キャビネット>アンケート分析用を押下し、アンケート B 集計テンプレート.xlsx をダウンロードしてください。



5. CSV ファイルを右クリックしプログラムから開く>Excel を押下してください。

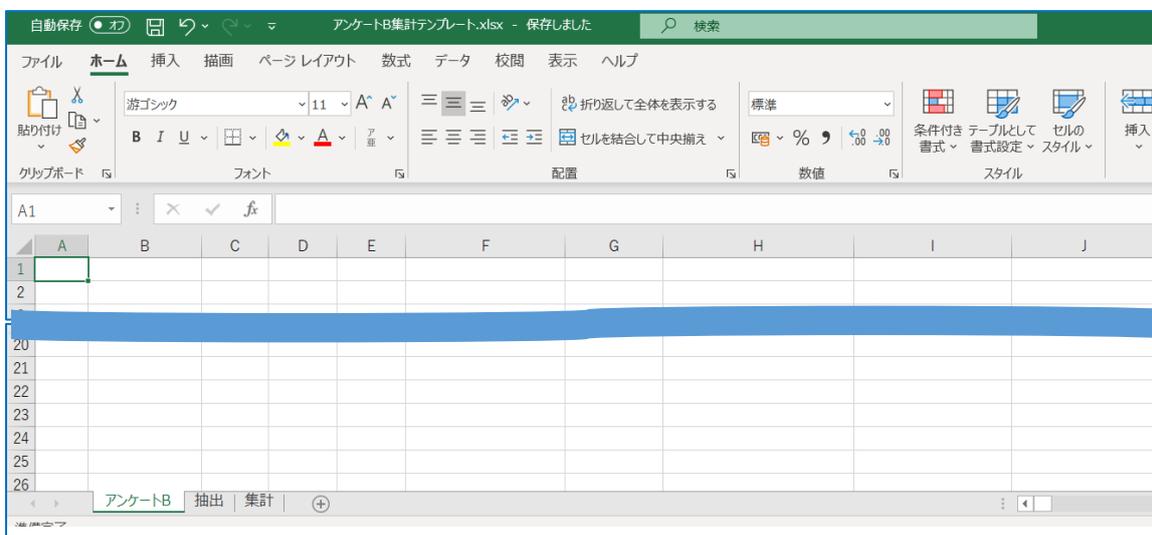
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	
1	回答者	回答日	回答回数	1-1. 名字	1-2. 名前	1-3. 所属	1-4. 学年	2-1. 学校	2-2. 提出	2-3. 部活動	2-4. 部活動	2-5. 同じ	2-6. 違う	2-7. 友人	2-8. 好き	2-9. 好き	2-10. 船	2-11. 船	2-12. 楽し	3-1. 起床	3-2. 就寝
2	Guest	#####	1	****	****	部広キャン#####	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****
3	Guest	#####	1	****	****	部広キャン#####	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****
4	Guest	#####	1	****	****	部広キャン2001/5/4	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****
5	Guest	#####	1	****	****	部広キャン#####	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****
6	Guest	#####	1	****	****	部広キャン#####	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****
7	Guest	#####	1	****	****	部広キャン2001/8/2	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****
8	Guest	#####	1	****	****	部広キャン#####	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****
9	Guest	#####	1	****	****	部広キャン#####	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****
10	Guest	#####	1	****	****	部広キャン#####	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****
11	Guest	#####	1	****	****	部広キャン#####	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****
12	Guest	#####	1	****	****	部広キャン#####	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****
13	Guest	#####	1	****	****	部広キャン#####	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****
14	Guest	#####	1	****	****	部広キャン#####	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****
15	Guest	#####	1	****	****	部広キャン2001/8/1	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****
16	Guest	#####	1	****	****	部広キャン#####	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****
17	Guest	#####	1	****	****	部広キャン#####	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****
18	Guest	#####	1	****	****	部広キャン#####	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****
19	Guest	#####	1	****	****	部広キャン2002/1/1	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****
20	Guest	#####	1	****	****	部広キャン#####	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****
21	Guest	#####	1	****	****	部広キャン#####	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****
22	Guest	#####	1	****	****	部広キャン#####	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****
23	Guest	#####	1	****	****	部広キャン2002/1/3	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****	****

※参考ファイルの氏名は伏せ字にしております

6. CSV ファイルを Excel で開いたら全選択 (Ctrl+A) でシートのデータをクリップボードにコピーしてください。

7. ダウンロードしたアンケート B 集計テンプレート.xlsx を開いてください。

8. アンケート B 集計テンプレート.xlsx アンケート B シートの A1 を選択し、クリップボードのデータをペースト (Ctrl+V) してください。



9. 抽出シートを参照してください。

※抽出質問に関しては別途記載

	B	C	D	E	F	G
1	1-1. 名 ^姓	1-2. 名前	2-8. 好き ^な	2-10. 勉強	2-11. 勉強	全部
2	****	****	N	Y	N	NYN
3	****	****	Y	N	N	YNN
4	****	****	Y	Y	N	YYN
5	****	****	Y	Y	Y	YYY
6	****	****	Y	N	N	YNN
7	****	****	N	N	N	NNN
21	****	****	Y	Y	N	YYN
22	****	****	Y	N	N	YNN
23	****	****	Y	Y	Y	YYY

10. 集計シートを参照し、ご活用ください。

B11 =COUNTIF(抽出!\$G\$2:\$G\$32,B10)									
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	2-8.がない以外がY	2-8.がないがN	2-10.がない以外がY	2-10.がないがN	2-11.がない以外がY	2-11.がないがN			
2	人数	21	10	19	12	11	20		
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9	※項目値のYは「ない以外」、Nは「ない(いない)」を質問順に連結しています								
10	YYY	NYN	YNY	YYN	NNY	NYN	YNN	NNN	合計
11	人数	8	2	1	4	0	5	8	3
12	割合	25.806	6.452	3.226	12.903	0	16.129	25.806	9.677
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									

2. アンケート B 集計テンプレート.xlsx の抽出質問について

当 Excel では、以下の質問を抽出し、集計しております。

<抽出質問>

- ・ 2-8. 好きな授業はありますか
- ・ 2-10. 勉強がわからないときに助けてくれる人がいますか
- ・ 2-11. 勉強したくないときに応援してくれる人はいますか

※抽出の意図は大野先生（他）有識者に追記してもらおう

<抽出シート説明>

抽出シートではアンケート B シートの上記問を抽出、評価（ポジティブ要素には Y、ネガティブ要素には N をつける）しております。

The screenshot shows an Excel spreadsheet with the following data table:

	A	B	C	D	
1		2-8.がない以外がY	2-8.がないがN	2-10.がない以外がY	2-10.が
2	人数	21	10	19	
3					

The formula bar shows: `=COUNTIF(抽出!D2:D32,"Y")`

<割合シート説明>

割合シートでは、抽出シートの各問の YN 数。連続回答パターンの集計を行っております。数式に関しては、以下を参考にアレンジを加えることも可能です。

The screenshot shows an Excel spreadsheet with the following data table:

	A	B	C	D	
9	※項目値のYは「ない以外」、Nは「ない（いない）」を質問順に連結				
10		YYY	NYY	YNY	Y
11	人数	8	2	1	
12	割合	25.806	6.452	3.226	
13					

The formula bar shows: `=ROUND(B11/J11*100,3)`

V. 2020年度におけるシステムの有用性について

1. 2020年度における環境と、分析事項について

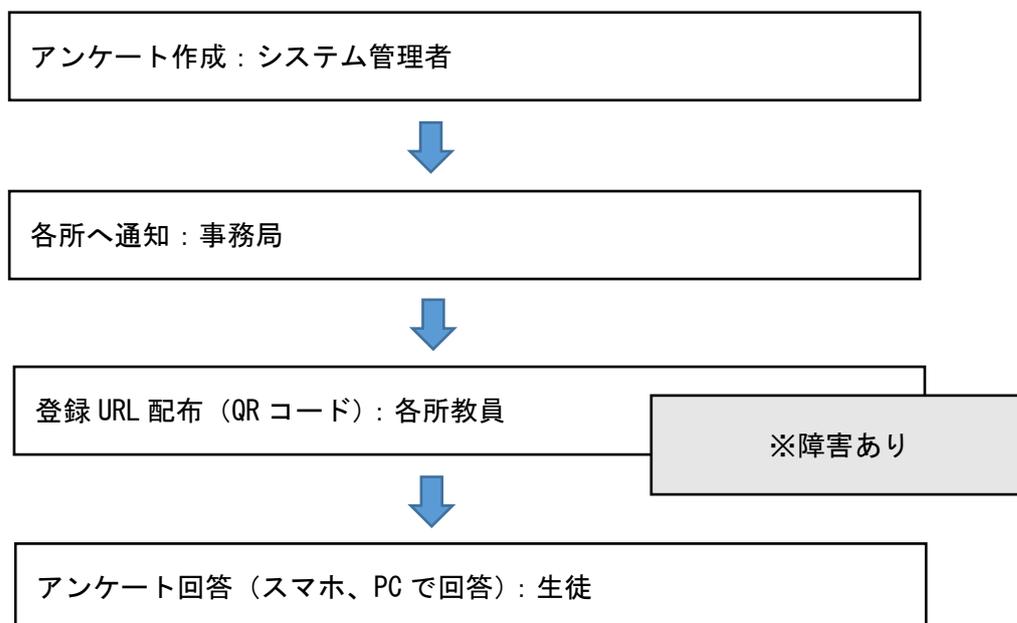
今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、当事業でも現地調査（ヒアリング）が中止となった。そういった環境下でもシステムの有用性を確かめるべき事項を列挙し、システム設計の観点から分析を行った。

1. 遠隔地でのシステム利用について
2. 遠隔利用における障害について
3. 2020年度の分析と考察

2. 遠隔地でのシステム利用について

当システムでは、遠隔地での利用を想定としたシステム（WEBシステム）として設計されていたこともあり、簡易なマニュアル程度の配布で、前年度と同程度のアンケート調査を行うことができた。

ただし、特殊環境下の為、アンケート実施までのフローにおける障害は明確になった。以下に、今年度（昨年度同様）のフロー例を記載する。



※配布資料例



3. 遠隔利用における障害について

生徒へのアンケート調査を行う際に、教員が QR コードを記載した紙の資料を配布し、アンケートを促すフローを想定していたため、今年度における事情では配布機会を損なうケースが見受けられた。

アンケート回答者（生徒）への連絡手段（Eメールで送付等）をキャリアガイドシステムに組み込むことも検討する必要があるが、昨年、一昨年度同様にアンケート回収までのフローを簡略化しないことには、利用頻度も上がらない為、当システムフローでは WEB システム側に連絡手段を組み込むことはしない方向とする。

4. 2020 年度の考察と分析

2020 年度における、当該システム利用は遠隔地へのアンケート収集というシステム設計上、ほぼ昨年と同様に実施することができた。

一部の運用フローにおける障害点については、別途検討する必要があるが、当システムの実施までの簡易性を確かめる点において、2020年度の事情は良い機会になったと考える。

当該システムの本質である、アンケート結果に基づく、分析調査に関しては、別途有識者の意見を参考とすることとし、システム設計側からの考察を終了とする。

2021年3月 株式会社オープンソース・ワークショップ 堀口 正行

VI. お問い合わせ

1. メール

以下のメールアドレスにご質問の内容など記載してお送りください。
担当者より返信致します。

support@opensource-workshop.jp

2. Web サイト

社 名：株式会社 オープンソース・ワークショップ

住 所：東京都中央区京橋2丁目8番4号 オックスフォードビル 2F

担当者：永原 篤

電 話：03-5534-8088

W E B：<https://opensource-workshop.jp>

6. 考察

通信制高校の現在と展望

手島 純

はじめに

図1は、高等学校生徒数（全日制と定時制）と通信制生徒数の推移を示したものである。このグラフから分かるように高等学校生徒数が減少傾向にあるのに対して、通信制高校の生徒数は横ばい・増加傾向にある。割合で見ると、通信制生徒数の高校生全体に占める割合は増加傾向にある。さらにその中身を見ると、図2で分かるように公立通信制生徒数は減少している一方、私立通信制生徒数は増加している。また学校数は図3のように公立通信制数が横ばいであるのに対して、私立通信制高校数は増加している。つまり、通信制高校に関しては、私立通信制高校の生徒数・学校数の増加が顕著なのである。

しかし、2021年1月27日に出された中教審答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」では通信制高校については、「高等学校通信教育の質保証」という観点からの記述の割合が多くを占めている。これは私立通信制高校をその主な対象としていて、質保証への疑問が呈されている。こうした状況も踏まえながら、通信制高校の向かうべき道を明らかにしていくことは必要である。

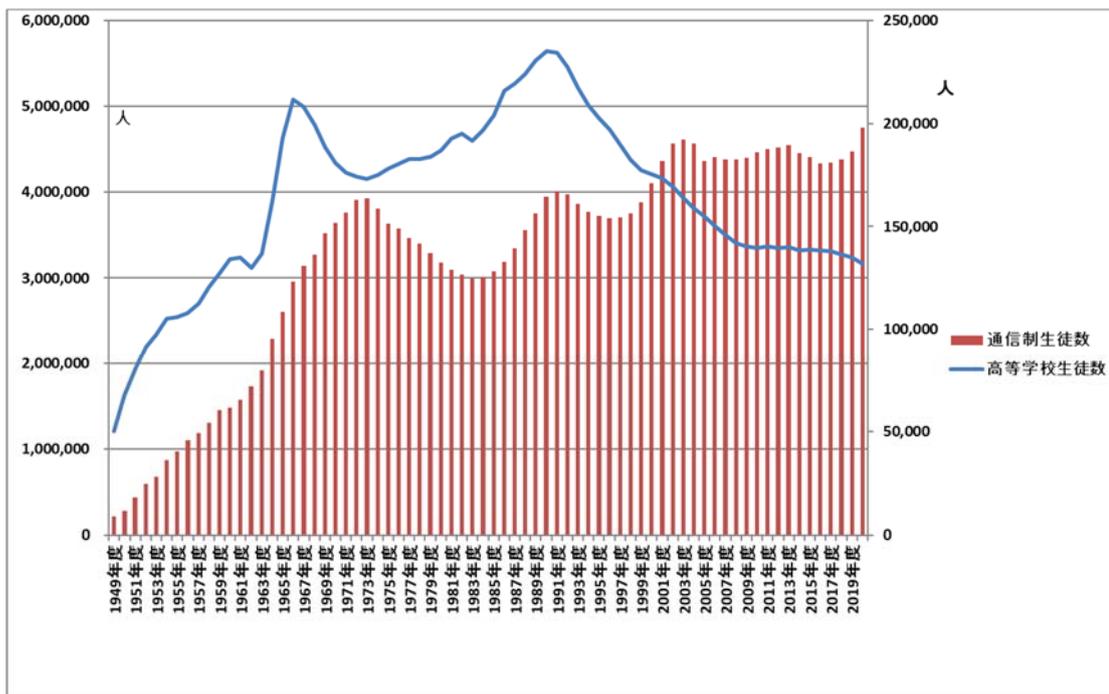


図1 高等学校生徒数（全日制と定時制）と通信制高校生徒数の推移
（学校基本調査報告書より作成）

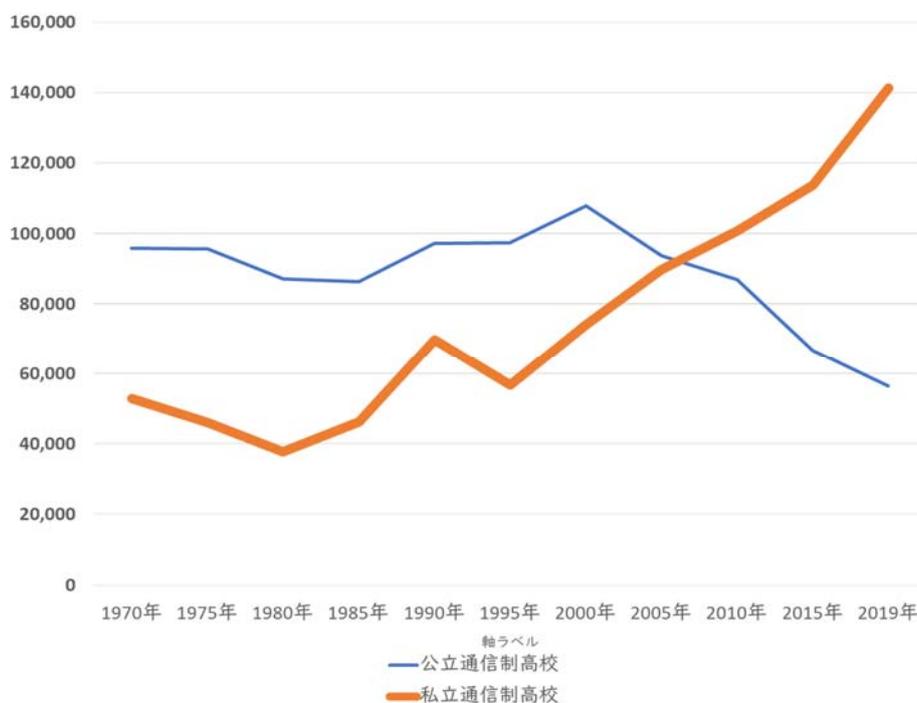


図2 公私立通信制高校の推移
（学校基本調査報告書より作成）

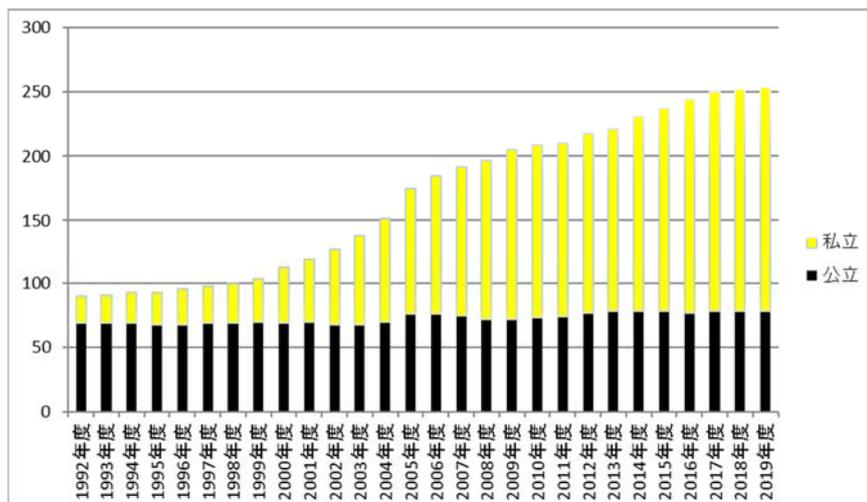


図3 公私立通信制高校数
(学校基本調査報告書より作成)

公立通信制高校

表1を見ると、公立通信制高校は私立通信制高校に比べて、「生徒の履修者数」「生徒の単位修得者数」において著しくその割合が低くなっている。公教育という枠組みの中での差異としては問題が多いと思われる。その主なる原因として、公立通信制高校が日曜日を中心としたスクーリングと郵送でのレポートの添削という以前からの教育方法が行われているということがある。もともと勤労青少年と一般成人をその対象としていた時代にこうした方法がとられることは生徒のニーズに合致していた。しかし現在は、不登校経験者・高校中退者・障がい者など多様な生徒が在籍しているゆえに、従来のサポートだけでは対応できなくなっている。公立通信制高校が生徒のニーズに合わせた対応が十分ではない理由として、独立の校舎を有する学校は少なく、平日は全日制や定時制の生徒が活動するために、通信制高校としての教育活動がしづらい状況にあるからである。また、公立通信制高校の教員の意識として、通信制高校の教員というよりも公立学校の教員であるという意識が優先し、生徒が減少していることに対する危機感が少ないということも挙げられよう。

表1 令和2年1月15日 文部科学省

「高等学校通信教育の現状について」より作成

	公立	私立	備考
年齢別生徒数(20歳未満)	約60%	約90%	R1年度
生徒の履修者数	64.2%	97.6%	R1年度
生徒の単位修得者数	45.7%	89.2%	H30年度間
大学進学者数	11.2%	19.1%	H30年度間
専修学校進学者数(専門・一般)	13.4%	25.0%	H30年度間
就職者数	21.9%	19.2%	H30年度間
上記以外(公共職業能力開発施設等入学者・不詳等を除く)	51.3%	35.2%	H30年度間

しかし、教育の機会均等を保障するという通信制高校の基本的な考えを
実質化するためには、生徒が脱落するのを見ているだけでいいわけではない。

こうした現状を打破するためには ICT の活用が有用であると思われる。ICT
ツールを最大に活用できれば、教員は学校で、生徒は自宅で、授業が展開でき
る。学校という場を使わなくても教育活動が可能になり、全日制や定時制との
併設であっても問題はないのである。授業料の安さに加え、セーフティネット
としての機能を担ってきた公立通信制高校の意義は大きい。中退者・不登校者・
障がい者の受け入れや保育設備の充実は公立通信制高校が過去に行ってきたこ
とである。さらに貧困家庭の生徒への配慮や少年院等・病院との連携、外国へ
つながる生徒の学力保障など、公益性の高い学校としての役割を追求すべき時
である。

私立通信制高校

私立通信制高校のなかでも広域通信制高校の活躍が目覚ましい。その理由と
して登校型の通信制高校というものが「発案」されたからである。学習指導要
領では全日制・定時制と通信制では学習形態が大きく違う。通信制高校は登校
が多く求められていない。その違いを有効に活用したのが登校型通信制高校で

ある。現在の登校型通信制高校では、週に1回・3回・5回などという登校形態の選択が可能になっている。こうした取組みは、「これが通信制高校なのか」という批判もあるが、実際の生徒たちの声を聞くと、生徒の満足度は高い。

2020年12月9日に行った星槎国際高校富山学習センターでの生徒インタビュー（ZOOMで実施）では、「学習センターの雰囲気」として「みんな楽しそうに学校生活を送っている」「上下関係がない」「一人一人が個性的である。充実している」などの回答を得た。また先生の雰囲気として「一人一人が優しいので、全体的に暖かい雰囲気」「先生たちが話しやすい。悩みも先生に助言してもらえる」「前の学校は成績を第一に考えるが、星槎は自分たちの事を第一に考える」「小中学校は人数が多く、自分の話を聞いてもらえなかったが、星槎の先生は聞いてくれるので、親しみやすい」などと答えてくれた。こうした傾向の答えは他の学習支援センターのインタビューでも同様であった。

しかし、こうしたことは、現時点で私立通信制高校一般に敷衍できるとは限らない。私立通信制高校、とりわけ広域通信制高校に関してはさまざまな問題点も指摘されている。前述した中央教育審議会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」では「高等学校通信教育の質保証」という項で「通信制課程を置く高等学校は、関係法令を当然に順守するとともに、ガイドラインをしっかりと踏まえた上で学校運営や教育活動を実施することが求められるが、未だに不適切な学校運営や教育活動を行っている学校も少なからず見られる」と記述されている。「注」には具体的に「例えば、広域の通信制の課程を置く高等学校に対する実地での立入り調査（点検調査）では、100人を超える生徒に対して教師が1名で面接指導を実施する事例、生徒が独自に行ったアルバイトを特別活動の時間としてカウントする事例、特別活動を年間指導計画に位置付けていない事例・・・」などが記されている。こうした学校があるのは事実であろう。しかし、それが広域通信制高校の構造的な問題にかかわっているかの論考がされているわけではない。

おわりに

通信制高校の役割は今日、非常に大きなものになっている。「いつでも どこでも だれでも」という通信制高校の基本的な考えは、今でも大切なものであ

る。それは実質的に教育の機会均等を保障するということであり、今後、遠隔教育が広がっていても通信教育の意義はなくなることなく、逆に重要になる。というのも遠隔教育は教育方法であるが、通信教育は教育内容も包含しているからである。本稿では公立通信制高校と私立通信制高校を対比して記述したが、そのどちらも今後の高校教育にとっての役目は大きいものがある。

知ることの意味

古壕典洋

1. 知ること

通信制への偏見が親に結構ありました。でもいまの私の姿を見て、親も納得してくれています。(3年・女性)

ここならがんばれるんじゃないかと思いました。(3年・男性)

中学のときにはあまり人に関わりたくないと思っていたけど、星槎に来てわかったことは、人と関わったほうが楽しいということです。(3年・女性)

星槎が手を差し伸べてくれる感じがしました。(3年・男性)

先生が好きだから学校に来ています。(3年・女性)

突出した人をどう認めるのか、どう仲間に入れるのか、それが今後問われてくるし大事なことだと思います。(3年・男性)

これはヒアリング調査¹で答えてくれた生徒たちの声の一部である。たくさん
の想いの詰まった声である。深く問いかけてくる声である。

彼ら彼女らの声は、最も大切なことに気づかせてくれる。教えることや学ぶことは「知る」ことから始まる、ということである。私に向き合ってくれる相手のこと、私の思考や行動を支えてくれるモノのこと、私を包み込んでくれる環境のこと、これらを「知る」ことから教えることや学ぶことは始まる。あるいは逆に、相手やモノや環境を「知らない」ことを自覚することから、教えることや学ぶことは始まる。

「主体的・対話的で深い学び」は大事な理念であり実践である。どのように教育の目的を内容を方法を考えればよいのか、どうしたら目的 - 内容 - 方法を有機的に連携させることができるのか、一人ひとりの子どもに合った学びの有りようとその評価のあり方とはなにか……。問いは無数に生まれ、それに対する

る回答がさまざまに示されている。

ただそこには、ある問いが抜けているように思われる。存在の問いである。私はあなたにとってどのような存在か、という問いである。教えることや学ぶことは、お互いの存在を受け入れ認め合うことから始まる。よい教え方や正しい学び方といった方法論や機能論からはじまるのではない。

人はかかわりのなかで成長し発達していく。相手を知り自分自身を知ること、教えることや学ぶことの出発点はここにある。彼ら彼女らの声は、こうした教育の原点に気づかせてくれる。

しかし、知ることはとても難しい。人は自分の見たいものしか見ようとしな
いし、聞きたいことしか聞こうとしない。なぜか。それが人間というものだからである。他者をとらえる視界は狭く、物事を経験的にしか理解できない限り
有る存在、それが人間である。

しかも人はじつに多様である。誰一人として同じ人はいないし、その一人ひ
とりが自らの内に多面性を宿している。多様さはわたしの内部にも外部にも在
る。そしてその多様さは時とともに変化していくものである。

したがって、相手を知り自分自身を知ることが容易なことではない。出来事
は極めて恣意的なかたちでしか把握できず、触れることができるのは多様さの
ほんの一部分にとどまり、そして〈知っている／知らない〉の区別はつねに移
ろいでゆく。けれども、教育という営みはここからはじめるしかない。

本事業の三年間の取り組みは、教育の原点に立ち返った「知る」を大切に
した実践である。

2. 相互性の瞬間

表1は「知ること」をまとめたものである。「分類」は教師と生徒を要素と
した6種類である。「認識」は分類を代表するヒアリング調査で得られた声を
載せている。

表 1 知ること

	分類	認識
1	教師が生徒を	「私は全生徒の担任」「生徒のスイッチを入れるのが役割」
2	生徒が教師を	「悪い人じゃなくて良い人」「成功させようとしてくれる」 「先生との壁を感じない」「家族みたい」「親身にいろんなことを聞いてくれる」「職員室で先生と話したがる」
3	教師同士が	「先生同士の仲が良い」「教員同士の勉強会はやっていない」「異なる地域との人材交流を行いたい」
4	生徒同士が	「生徒が他の生徒の特性を把握している」「悪い子がいない」 「先輩後輩がない」「学年の壁がない」「クラスの友達も話しかけてくれる」「自分が気を使わなくても周囲が気持ちを察して動いてくれる」「友達を知る授業があるといい」 「グループのあいだの壁はある」
5	教師が自分を	「自分の土地を外から見る機会がほしい」
6	生徒が自分を	「星槎に来てわかったことは人と関わった方が楽しい」 「好きなことがたくさんありすぎてわからない」「星槎に来てパティシエになる夢ができた」

(1) 特徴

①教師と生徒

教師と生徒とのかかわりは良好である（分類 1, 2）。教師は生徒に対して、「私は全生徒の担任」「生徒のスイッチを入れるのが役割」との認識がある。他方で、生徒から教師に対しては「悪い人じゃなくて良い人」「成功させようとしてくれる」「先生との壁を感じない」「家族みたい」「親身にいろんなことを聞いてくれる」「職員室で先生と話したがる」との認識がある。

②生徒同士

生徒同士のかかわりも学年のちがいに関係なく良い（分類 4）。たとえば次のような声がある。「生徒が他の生徒の特性を把握している」「悪い子がいない」「先輩後輩がない」「学年の壁がない」「クラスの友達も話しかけてくれる」「自分が気を使わなくても周囲が気持ちを察して動いてくれる」。

③縦のかかわり

以上を踏まえると、縦のかかわりが良好であることがわかる。教師と生徒のあいだにも、生徒の先輩後輩のあいだにも「壁がない」と感じられている。生徒はそのつながりのなかで自分自身を知っていく（分類 6）。「星槎に来てわかったことは人と関わった方が楽しい」「好きなことがたくさんありすぎてわからない」「星槎に来てパティシエになる夢ができた」。

（2）課題

①教師

課題として見えてきたのは、教師にかかわる 2 つの事項である。ひとつは「教師同士が知る」（分類 3）ことである。「先生同士の仲は良い」ものの、「教員同士の勉強会はやっていない」「異なる地域との人材交流を行いたい」との声にあるように、教員同士がお互いにじっくりと向き合う機会が少ないことがわかる。もうひとつは「教員が自分を知る」（分類 5）である。「自分の土地を外から見る機会がほしい」との認識が示された。

ヒアリングの際に各教師から共通に語られたことは、これまで以上に生徒と真剣に向き合うために自分自身を外側からみつめる機会を確保してほしいこと、そして教師の多忙化であった。

②同学年

生徒同士のかかわりは基本的に良好である。ただし、「友達を知る授業があるといい」「グループのあいだの壁はある」（分類 4）との認識が示されたことも、課題として考慮に入れる必要があるだろう。

③横のかかわり

総じて言えば、課題は横のかかわりにある。教師同士がお互いを支え合い高め合えるような場が必要である。成長発達する生徒の全体的存在を支える教師もまた、成長し発達する存在である。

星槎国際高校の実践に接したときにぼんやりと思い出した言葉がある。オランダの教育学者ヴァン・マーネンの言葉である。

「身体的あるいは言葉による握手の瞬間は、その子にとって、教師がそこにいる瞬間であり、教師にとって、その子がそこにいる瞬間である。真の出会いには、他の世界から遮断された、相互性の瞬間がある。その中には、人と人との真のふれあいの可能性が横たわっている。私たちの手や笑顔が相手のそうしたしぐさに応答するとき、私たちは、共有された空間を作り出す。ほほ笑みは開かれた心への誘いとして経験される。私たちの目が合う。一瞬、私たちは、お互いのためにだけ存在する」(Manen 2002=2003 : 64-65 頁)。

星槎国際高校の実践にはさまざまな「握手」がある。そして「相互性の瞬間」がある。「人生を可能性として経験する」(同上書:27 頁) 生徒はその一瞬を通して相手を知り自分自身を知る。それは教師も同じである。「一瞬、私たちは、お互いのためにだけ存在する」、そんな瞬間をこれまで以上に創るためにも横のかかわりの充実を図る必要があるのではないだろうか。

3. 異質な存在

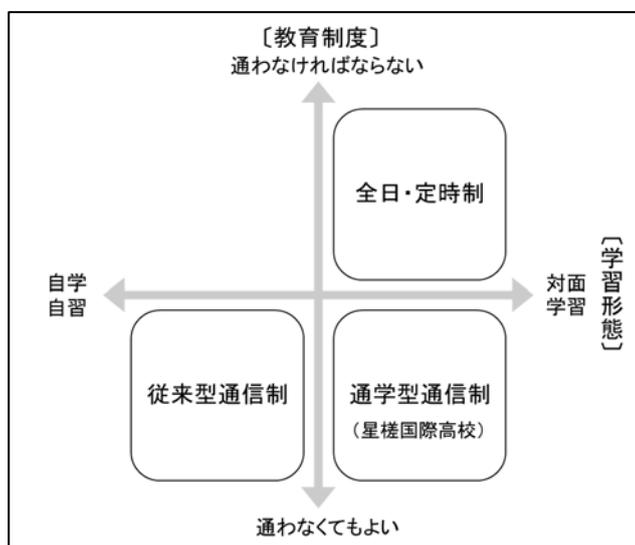


図1 高校教育の類型化（古壕 2016 に加筆し作成）

さて、以上の知見は高校教育にどのような影響を及ぼし得るのか。それは、星槎国際高校という場で実践されたことに関係している。ここで補助線として、現在の高校教育を3つに分類した〈図1 高校教育の類型化〉を導入しよう。星槎国際高校——通信の方法を用いた通学型の「全日・定時制」ではない高校——は「通学型通信制」に位置づく。

対象の全体を把握するためには、それを内側から捉える視点と外側から眺める視点の2つが必要となる。それでは高校教育の場合はどうだろうか。じつは、高校教育の双方の視点を体現しているのが、通学型通信制＝星槎国際高校である。高校教育にとって通学型通信制は学校教育法に内在しつつも、他方で「通学」を学びの原理的な前提としない点——生徒の自由選択——で外在している存在である。

それだけではない。さらなる理由は「通学型通信制」という名辞矛盾——通わなければならない／通わなくてもよいは二律背反！——にある。この名辞矛盾は、生徒は多種多様に学んでいるにもかかわらず、その学びを同定する相を「通わなければならない／通わなくてもよい」を用いて「通学型通信制」と形容せざるを得ない現状を意味している。学ぶという現象と、それを名指す言葉

とがズレてしまっている。つまり、高校教育の構造的問題が通学型通信制に象徴的に現れているのである。

このように、通学型通信制は高校教育の全体の視点を体現していると考えられる。星槎国際高校の実践は高校教育の枠の内側から、高校教育の枠そのものを問い直し創りなおす可能性を秘めている。その意味で星槎国際高校は、いわば異質な存在である。

異質な存在の「異質さ」は、既存の自明性を揺さぶるその潜勢力にある。わたしたちの「自然」な教育観や「当たり前」の学習観に、「本当にそれでよいのか」と疑問を投げかけ続ける。

教育の原点に回帰する星槎国際高校の実践は、「知ること」の大切さに気づかせてくれるのである。

注

1 ヒアリング調査は生徒と教師に対して行われた。生徒に対する主な質問項目は次のとおりである。(1) 好きな授業や行事、(2) 学習センターの雰囲気、(3) 星槎国際高校・学習センターを選んだ理由、(4) 登校日数とその理由、(5) 地域の好きなところ、(6) 卒業後の進路。

教師に対する主な質問項目は次のとおりである。(1) 生徒の全体像、(2) 教員研修で必要なこと、(3) 地域の課題、(4) 生徒に聞きたいこと、(5) 生徒に付けさせたい力、(6) 生徒が星槎国際高校を選ぶ理由。

参考・引用文献

Manen, MaX van., 2002, *The Tone of Teaching*, The University of Western Ontario = 2003 岡崎美智子ほか訳『教育のトーン』ゆみる出版.

古壕典洋 2016「おわりに」(特集 高校通信教育 社会の変化と高校教育(過去、現在、そして未来へ—高校通信教育の視点から)『日本通信教育学会 研究論集』82-85頁.

高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業に関する
検討会議メンバー

大野 精一（座長）	星槎大学大学院教育実践研究科教授
前田 豊	星槎国際高等学校校長
松本 幸広	学校法人国際学園企画課長
土岐 玲奈	星槎大学大学院教育学研究科講師
古壕 典洋	日本通信教育学会理事
手島 純	星槎大学大学院教育学研究科教授
西永 堅	星槎大学大学院教育学研究科教授
牧野 秀昭	星槎国際高等学校教頭
安田 浩一	星槎国際高等学校教頭
下條 隆志	星槎国際高等学校 沖縄学習センター長
吉川 遼	学校法人国際学園 事業経営課
吉田 香桜里	学校法人国際学園 事業経営課

高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業
通信制高等学校における多様な生徒に対する個の強みを伸ばす
指導方法の調査研究
報告書

2021年3月14日

著者 高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導
の充実事業に関する検討会議

発行者 学校法人 国際学園

発行元 学校法人 国際学園